

研究構想シート		学校名	安来市立飯梨小学校
		氏名	原 美穂子
A 研究主題	主体的に取り組み 深い学びへと向かう子どもの育成 ～ 数学的に表現し分かり合う活動を通して ～		
B 研究の目的	課題解決に向けて興味をもって粘り強く取り組むための学習過程を工夫したり、学び合いの場において、見通しをもって議論していくための効果的な方法を工夫したりしていくことで、主体的に取り組み、深い学びへと向かう子どもが育つことを実践を通して明らかにする。		
C 子どもの実態 ・素直でまじめに物事に取り組む子どもが多い。 ・少人数のため、一人一人に責任ある活動を任されたり、意見を求められたりするなど、発表の機会も多い。 ・協調性があり、誰とでも仲良く過ごすことができる。 ・自分の考えを表現し、他の意見を受け止めながらよりよい考えを創るような対話をするこ とは 苦手である。 ・互いの考えを聞いて疑問点を質問したり、誤答を正そうとし たりすることはできるが、そ の根拠や妥当性を確認し、比較 検討し、わかり合う話し合い は 苦手である。	E 〔研究仮説〕 ねらいを明確にして学び合いの方法や場の工夫をすれば、数学的な見方・考え方を働かせて、学びを広げていく子どもが育つであろう。 〔内容〕 (1) ゴールを明確にした学習過程の工夫(授業プランシート) (2) 見通しをもって議論していくための効果的な方法の工夫〔手立て〕  ①学習の流れの統一「飯梨小スタンダード」 ・問題→見通し→めあて→ <b>一人学び→みんな学び</b> →まとめ→練習→ふりかえり ※個人思考→集団思考の練り上げ 3つのステップ ①妥当性の検討(理解の場) ②有効性・関連性の検討(比較の場) ③解決方法の選択(選択の場)  ②授業プランシートの活用(バックキャストで授業を構想する) ・ねらいを達成した子どもの姿(B基準A基準)→それを図る適用題 ・めあてとまとめの整合性→ぶれない授業 ・個人→集団への 思考の練り上げ ・タイムマネジメント(一連の学習を最後までやりきる) ・振り返り(めあてに対する振り返り)内容の定着、自学につなげる、→学力向上 ?…はてな !…なるほど →…だったら～  ③板書の工夫 ・直接指導での活用、間接指導での活用 ・共通と相違の明確化  ④表現スキルの向上 ・分かりやすい図や表記 ・要点を押さえた書き方、話し方  ⑤複式学級における学年別指導の工夫 ・見通しをもたせる工夫(板書カードなど) <span style="float:right">答え</span> ・教師のかかわり方の工夫(教えるべきこと、考えさせることを明確にする) ・ずらし、ガイド学習などの工夫  ・ICT活用	D めざす子どもの姿  ・既習事項や友達の言葉を手がかりに、数学的な見方・考え方を働かせて課題に向かい、学びを広げていこうとする子	
	F 検証方法 ①授業における子どもの変容を観察する。 ②ノートやワークシートで変容を見る。 ③研究授業を通して、目標に迫る学習であるか検証する。 ④授業記録をとって検証する。 ⑤学力調査、意識調査などを使って変容を見る。		
	G 研究計画 4月 児童の実態把握 ・ 飯梨小学びの基礎・学力向上の取り組み 提案 5月 研究の方向性 提案 概要・計画・まとめについて 6月 なしっ子タイムの取り組みについて 学力向上・特別支援に係る学校訪問 8月 全国学力・学習状況調査を用いた学力向上(授業改善)研修会 6月～12月 校内研究授業 基本一人一回 1月 研究のあしあと執筆 学力向上・特別支援に係る学校訪問 2月 今年度の研究の振り返り・次年度に向けて 3月 研究のあしあと完成		

